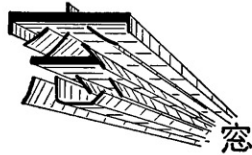
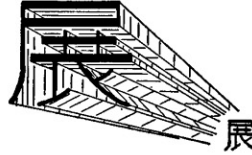


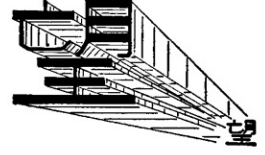
車



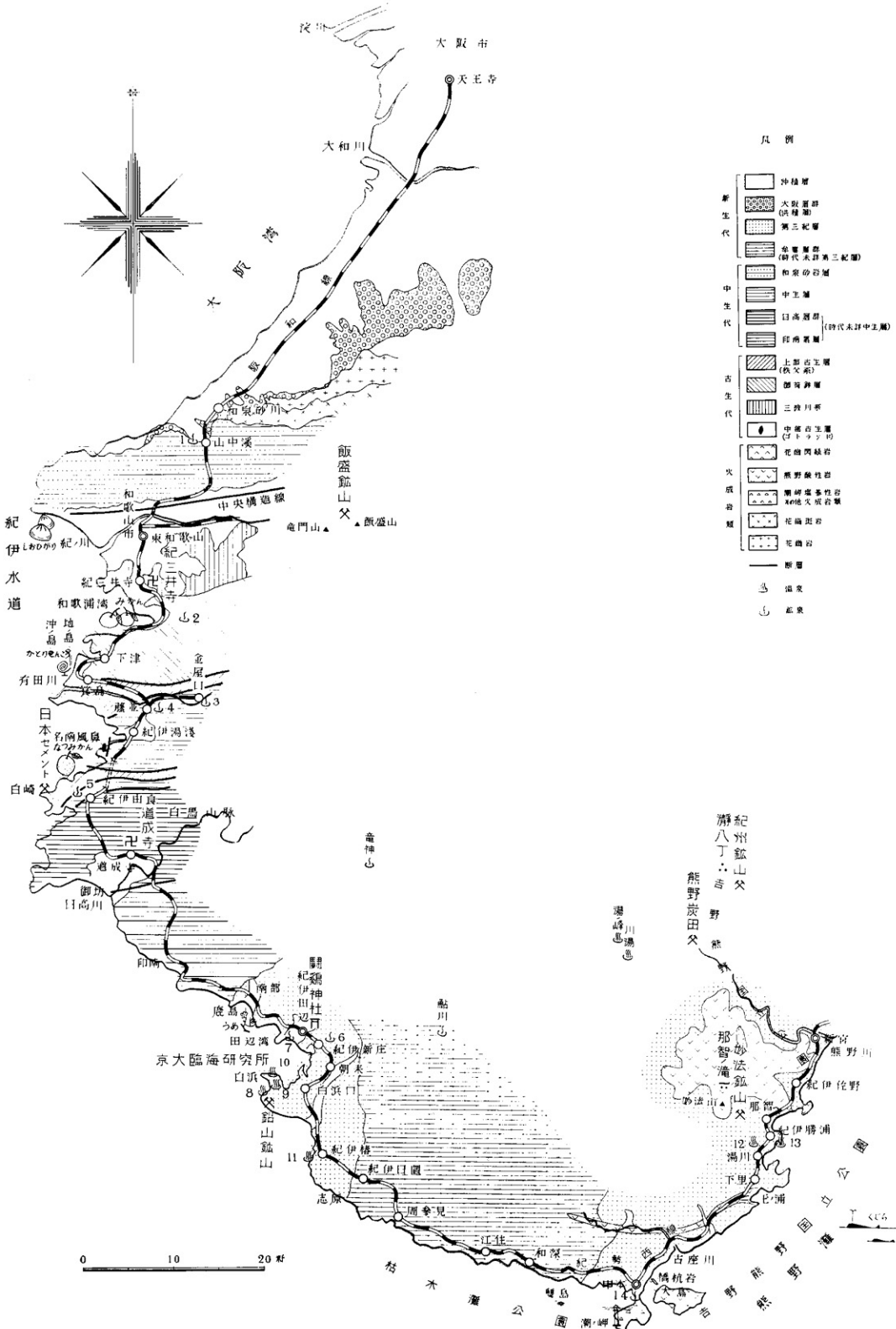
窓



展



望



阪和線・紀勢西線

(大阪—新宮)

汽笛一声

天王寺駅のプラットフォームをはなれた列車が 最初に渡る川がその昔淀川の支流であった大和川。この川は現在では 堺市の上水やその河岸にある工場の水源として大切な河川となっており 2,3の工場だけでも 20,000 m<sup>3</sup>/日の水を使っている。

大和川を渡ってしばらくすると **大阪層群** の丘陵にかかる。瓦をつくる粘土を採掘している所が あちらこちらに見えるのもこの辺であり 遊園地として有名な **和泉砂川** 駅付近には <sup>いつか</sup> そのためのできた独特な地形がみられる。

西南日本を内と外の

二つに切る構造線

大阪府の南端阪和線山中溪駅を寄り切るあたり その行手をはばむように **和泉砂岩層** と呼ばれる上部白堊紀の礫岩・砂岩・頁岩などでできた和泉山脈が起伏しているのが望まれる。

和泉山脈を孝子のトンネルでくぐりぬけると急に視界が開ける。そこには南国の強い日ざしと柔らかい潮風がただよい 眼下に紀ノ川が 広い平野の中を銀色に輝きながら帯のようにうねって 流れているのが望まれる。その向こうには蜜柑山のだんだん島も見えて来よう。

列車は 中

央構造線

と名付けられ

ている西南日本

を内と外の

二つに区切る

大きな断層帯

に入っている

ことを知る。

中央構造線の

中央を流れる

紀ノ川を渡る

と 徳川御三

家の一つ紀州

徳川55万石の

城下町として栄えたかの和歌山市はもうほど近い。



大阪層群（青色粘土とシルトの互層）

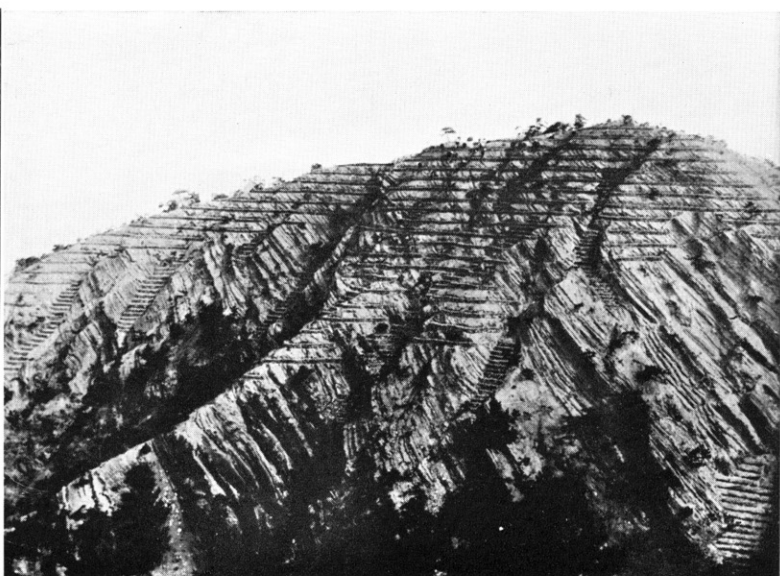
紀州路 第一歩

東和歌山駅を出ると 地質的には完全に内帯から外帯にとびこんでいく。こうして第一歩を印した紀州路の旅は まず **三波川系** と名付けられる結晶片岩地帯から始まる。

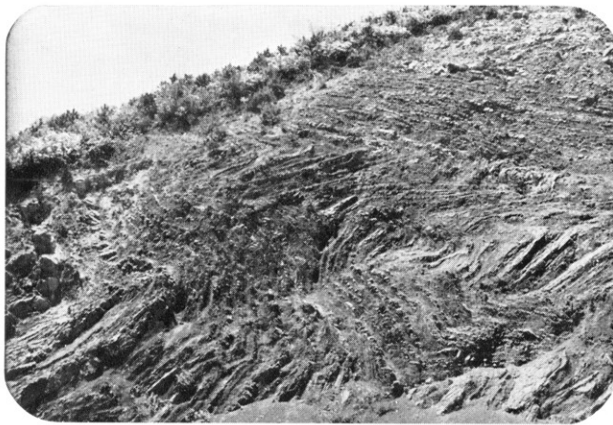
左の車窓越しにキースラーガー（層状含銅硫化鉄鉱という）鉱床を内ぶところに深くいただいた竜門山・飯盛山などが遠望される。有名な飯盛山はこれらの山の



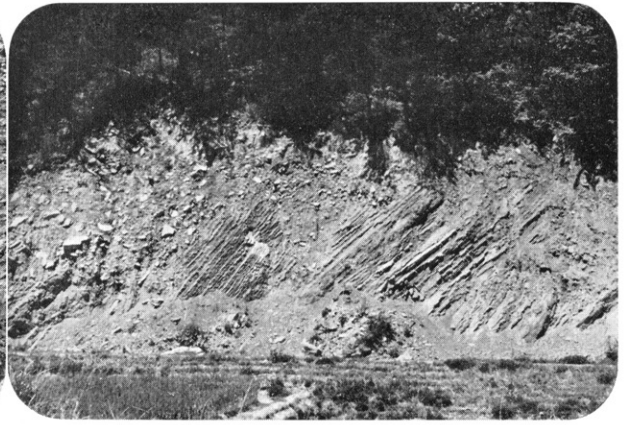
山中溪付近の「和泉石」の採石場における和泉砂岩層



和泉砂岩層地帯の荒地地に大阪府が行っている砂防工事



大阪府泉南郡鳥取池付近の和泉砂岩にみられる褶曲



大阪府泉南地方の和泉砂岩層の境谷砂岩および根来互層の荒地地 いわゆる山麓型崩壊の例

ふもとにあって終日そのたくましいさく岩機の響が峯々にこだましている。

西国33ヵ所観音第2番札所の紀三井寺や黒江塗と和傘で名高い海南市を過ぎると 波静かな和歌浦湾が車窓右に迫ってくる。そして遠く淡路島がかすみ 白帆が三つ四つという風景……

列車は御荷鉾系の準片岩類でできた丘陵地を 海岸沿いに掘られた十指に余るトンネルをくぐって南へ南へと走る。だんだん島に蜜柑が色づくころは 晩秋の夕日が南国紀州の情緒をひとしお濃厚に車窓にかもし出してくれよう。

### 有田川流域と蜜柑どころ

わが国屈指の油の町 下津の港。林立している銀色の製油所のタンクを右に さらにトンネルをくぐり抜けると初島駅あたり 右の車窓に紀伊水道に浮ぶ地ノ島・

沖ノ島をはじめ大小多数の島々を見ながら有田川の三角洲をぬける。

蚊取り線香の生産地箕島駅を過ぎると 右手に上部古生層でできた山が 石灰岩の石垣で作られただんだん島を重そうにのせているのに気付かれよう。

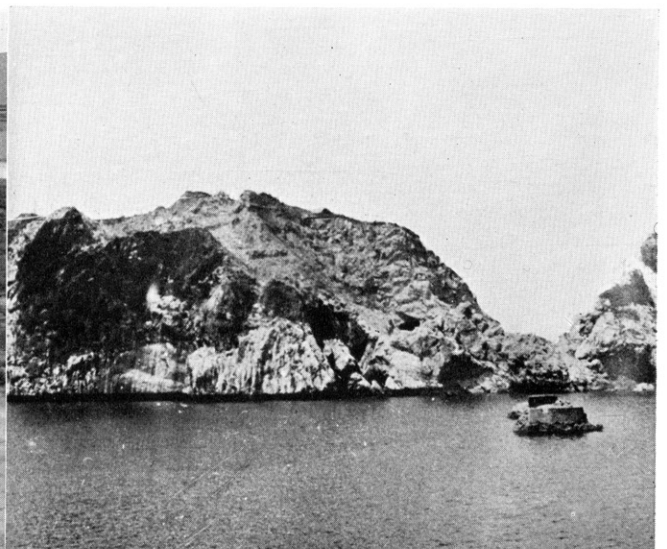
去る昭和29年6月に大きな被害をうけて改修間もない有田川堤に沿って左に 御荷鉾系が 右には古く古生代の昔 サンゴや紡錘虫の生息地であった蜜柑島の盛観を見ながら 中將姫の物語を鐘楼に秘めた得生寺のある宮原にさしかかる。

藤並駅を越えると山が車窓に迫ってくる。この付近から車窓にうつる地層は三角貝・菊石・二枚貝・ウニ・羊歯類などの化石が出る 白堊紀層 になってくる。

山間を抜けて広々と拡がる田園の中を紀伊湯浅駅へと列車は 紀州蜜柑の本場を後に一路南へとはしる。



車窓からみる有田川



白崎鉦山の石灰岩



岩代の第三紀の礫岩層



南部付近の印南累層

### サンドウィッチ構造の中部紀州

蜜柑どころ湯浅町を過ぎると名南風鼻がその遠景を車窓にあらわす。ここでは花崗閃緑岩中 現在わが国で最も古いとされている 中部古生代（ゴトランド）の地層がみつまっている。

中生代の二枚貝・ウニ類や古生代の有孔虫などがすんでいたころの 砂岩・頁岩・石灰岩などの地層をくぐりぬけると 紀伊由良駅。

その西方海岸の白崎付近では古生層の石灰岩が採掘されており この石灰石は船便によって大阪に運ばれている。このように中生層と古生層とがサンドウィッチのようにはさまってできている中部紀州を後に 日高層群 と呼ばれる中生代の白馬山脈を横切るころ 御坊の市街がゆく先に見えはじめる。

### 南紀いで湯を車窓から

御坊駅を過ぎて伝説にまつわる日高川を渡ると ところが道成寺。 安珍・清姫の執念こもる鐘のあるのがここである。

印南・南部町付近のリアス式海岸は 印南累層 といわれている中生層で 縞状に見える砂岩・頁岩の互層が海岸沿いに走る車窓にひとしお美しさを示してくれる。

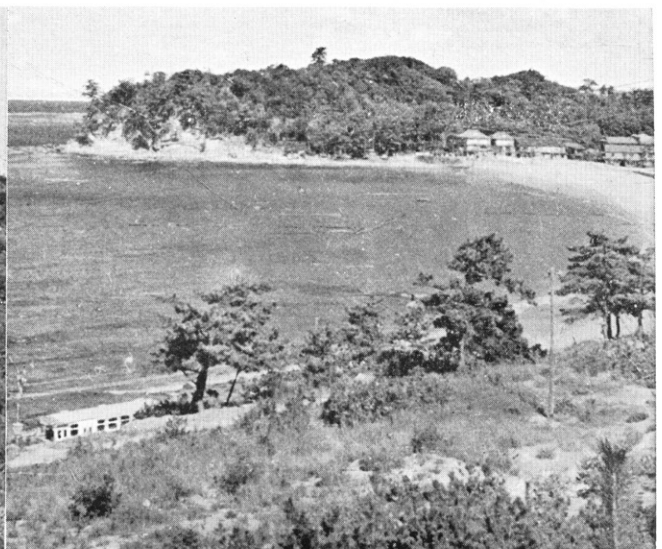
南部湾に浮ぶ鹿島を右に見ながら なおも第三紀層の砂岩層・頁岩層の上を海岸沿いに走ると 南紀の中心地 田辺駅につく。ここは役行者小角が発見したと伝えられる竜神 大塔宮ゆかりの鮎川 一辺上人と小栗判官の伝説を生んだ湯ノ峯・川湯などの山間にある いで湯の玄関口ともなっている。

また 源平の昔 熊野の別当湛増が鶏を紅白に分けて戦わせ 源平のいずれかに味方するかを決めたという闘鶏神社もこのあたりにある。

右窓の田辺湾にのぞむリアス式海岸 左に第三紀層の二枚貝・巻貝・植物化石の出るあたりを見て 新庄・朝



朝来付近の砂岩・頁岩の互層



白 良 浜 (白 浜)





紀伊富田駅付近の砂岩・頁岩の互層および砂岩層の田辺層



紀伊日置駅付近の地質まんじゅう（砂岩・頁岩互層）

来駅付近の丘陵地をよぎると<sup>はまゆろ</sup>浜木綿のかおりいで湯白浜・湯崎湯泉などの玄関口 白浜口駅である。

砂岩中の漣痕の化石 砂岩中のわれ目を二次的にみだした泥岩脈などの天然記念物 南紀随一の釣場三段壁・千畳敷などはいずれも第三紀層であって この地の観光の中心をかたちづくっているといえよう。

白鷺のあとをたどって発見されたと伝えられる椿温泉のある紀伊椿駅を後にすれば 周参見・江住付近に **牟婁群層** の名で呼ばれている第三紀層の海岸が見えてくる。

熊野灘の激浪に浸され むしばまれている狭い国土の片鱗が ここで痛烈に身にしみて感じられるだろう。

和深駅を出て双島が熊野灘に浮ぶのを車窓に見るころ本州の最南端 潮ノ岬が前方にその姿をあらわす。

### 潮ノ岬とその付近

潮ノ岬の頸部にあたるところ あの串本節で名高い串

本町 その南にのびている花崗斑岩と斑縞岩の陸繋島を車窓にのぞむ。歌にある巡航船のゆきかう花崗斑岩の島 大島が「弘法大師の大島渡りの橋杭」という伝説を生んだ橋杭岩の前方にかすんで見える。第三紀層の頁岩中に石英粗面岩が入り込み そこが海蝕作用をうけて橋杭の形に石英粗面岩の岩脈が浅されたものである。

亜熱帯植物の羊歯類がしげっている<sup>くろく</sup>九龍島の遠景を右の車窓に 列車は石英粗面岩の山間をぬける。万葉の昔から歌で有名な玉ノ浦海岸の美しい入江のある下里町 熊野灘捕鯨の根拠地 太地付近の丘陵 静寧天皇が発見されたという湯川温泉や 白浜とならんで有名な勝浦の温泉地帯をいだけ その名も紀伊松島のリアス式海岸を見おさめに列車は一路熊野路にかかる。

### 熊野路というところ

神武天皇上陸の地といわれる白砂の美しい那智浜を右



砂質頁岩の部分が太平洋の黒潮に侵蝕されている牟婁層群（和深付近）



砂岩・砂質頁岩互層の牟婁層群（和深付近）



砂岩・砂質頁岩互層の傘妻群(和深付近)



橋杭岩

に那智駅につく。熊野3山の一つ那智大社 落差130m 日本一を誇る那智の滝 妙法鉱山をはじめ多くの鉱床をいだけ鳥帽子(909m) 光ヶ峯(686m) 女人高野の異名を持つ妙法(750m) の山々が左の車窓をかすめる。

那智の山には石英粗面岩にかかる大小48の滝があって中でも一ノ滝は 那智滝として広く知られており 晴れた日には原始林の青一色の中に 一条の白糸のように望まれるのも また熊野路車窓展望の忘れがたい一こまであろうか。

佐野駅を過ぎて 緑の松林の間に紺碧の海原が見えるあたり 第三紀層の黒い粘板岩の破片が白砂の中に散らばっているのが見られよう。この黒い粘板岩は那智黒と称せられて 基石や硯石などの原料に採取されているのである。佐野の松原を海岸沿いに間もなく吉野・熊野国立公園の表玄関 新宮市につく。第三紀層を貫

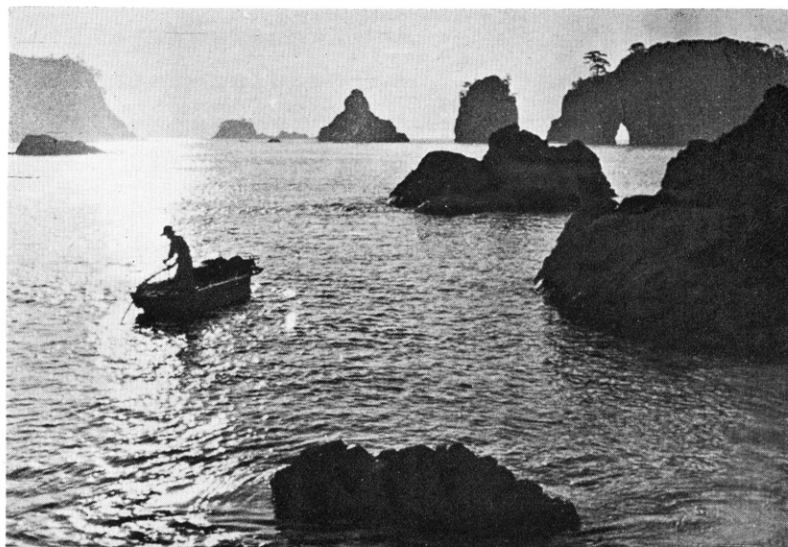
てこのあたりに広く分布している石英粗面岩・花崗斑岩は 熊野酸性岩 といわれ 南紀一帯の温泉や妙法・紀州鉱山をはじめとする数多くの鉱床ができるのに密接な関係をもっている。

プロペラ船やイカダ流して有名な熊野川は この熊野酸性岩体を南北に切って流れており 上流には瀬八丁や戦時中盛んに稼行された熊野炭田(無煙炭)がある。

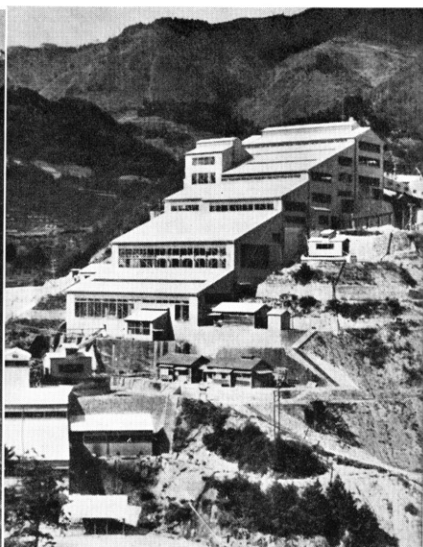
この熊野川に沿って奈良県五条駅に通じる五新線の敷設が計画されており 人跡未踏といわれた奥吉野・奥熊野の資源の開発にいどむ準備が進められているという。

新宮駅から汽車はさらに東進し やがて熊野川の大きな鉄橋を渡って 三重県に入る。この紀勢西線も現在 あたし 新鹿駅まで通じており 近く紀勢東線と相会する予定であるという。

(大阪駐在員事務所)



紀伊松島



妙法鉱山の選鉱場  
[建坪約3,300m<sup>2</sup> ヘッド53.2m 傾斜240 能力500t/日]